

施策マネジメントシート

基本施策名	16 花と緑と水のある環境づくり	施策 統括課	環境政策課	氏名	鈴木孝
政策名	6 環境	主な 関係課	下水道課		

1 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

・市内全域
・公共用水域

② 施策の目的

市内外に国立の魅力を印象づける重要な地域資源として、より多くの緑を保全し、市内の貴重な水資源の水量の確保と水質の向上を目指します。

③ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 人口 (年度当初の人口4/1現在)	人
イ 市域面積	km ²
ウ	
エ	

④ 成果指標 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない

名称 (展開方向ごとに記載)	単位
1 ア 緑が十分にあるまちであると思う市民の割合	%
イ	
2 ア 雨水浸透ますの設置数(累計)	基
イ 湧水の測定地点における環境基準の達成率	%
3 ア	
イ	
4 ア	
イ	

2 第2次基本計画期間 (令和2～令和9年度) 内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段 (具体的な取組内容)
1 花と緑の確保	将来にわたって継承すべき貴重な財産として、花と緑を大切に守り育て活かせます。	◆屋上緑化、緑のカーテン(壁面緑化)、生垣の形成を促進し、公共施設や民間建築物の敷地内及び屋上、壁面等の緑化を推進します。 ◆崖線の適正な維持管理を進めるとともに「農の営みが残る原風景」の保全を推進します。 ◆青柳崖線や東京都の歴史環境保全地域である「谷保の城山」などの市内に残された貴重な緑の保全を推進します。 ◆花と緑のまちづくり協議会の活動を促進し、花と緑を充実させていきます。 ◆市民の身近な緑である公園を適正に維持、管理していきます。
2 水環境の保全と活用	矢川や湧水等の水環境を保全し、市民生活に精神的な安らぎや潤いを与えます。	◆地下浸透機能を持つ緑地等の保全や雨水浸透ますの設置を促進し、地下水のかん養に取り組みます。 ◆地下水及び湧水の定期的な調査・監視を行い、その結果を踏まえ良好な水質を維持するために必要な対策を講じます。 ◆市内に残された貴重な自然資源である矢川や湧水、府中用水などの水環境を市民の憩いの場や学びの場として活用します。
3		
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R9年度					
対象指標	ア	人	見込み値						76,098	76,106	76,140	75,925	目標達成度				
		実績値	75,054	75,466	75,932	75,984	76,503										
		イ	km ²	見込み値					8.15	8.15	8.15	8.15			達成・ 未達成	前年度 比較	
		実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15										
	ウ		見込み値														
エ		見込み値															
成果指標	展開 方向1	ア	%	成り行き値									達成	向上			
			目標値	46.0	46.6	47.1	47.6	48.1	48.6	49.1	50.0	55.0					
			実績値	49.5	51.5	46.8	49.8	53.0									
		基本計画における 指標の説明又は出典元		国立市市民意識調査(緑が十分にあるまちであると思う市民の割合)													
		イ	%	成り行き値													
			目標値														
	実績値																
	展開 方向2	ア	基	成り行き値									未達成	向上			
			目標値	15,200	16,100	17,100	18,100	19,175	20,250	21,325	22,400	26,400					
			実績値	15,032	16,118	17,117	18,063	19,052									
		基本計画における 指標の説明又は出典元		市の助成及び窓口指導によって設置された雨水浸透ますの基数(各年度末)													
		イ	%	成り行き値												達成	向上
			目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値		92.0	100.0	100.0	97.0	100.0										
	展開 方向3	ア	基	成り行き値													
				目標値													
				実績値													
			基本計画における 指標の説明又は出典元														
イ			%	成り行き値													
			目標値														
		実績値															
展開 方向4		ア	基	成り行き値													
				目標値													
				実績値													
		基本計画における 指標の説明又は出典元															
		イ	%	成り行き値													
	目標値																
実績値																	
施策コスト	事業費	内訳	事務事業数	本数	15	13											
			国庫支出金	千円													
			都道府県支出金	千円	6,300	4,100											
			地方債	千円													
			その他	千円													
			一般財源	千円	187,942	186,322											
			事業費計 (A)	千円	194,242	190,422	0	0	0	0	0	0			0		
			延べ業務時間	時間	17,120	16,172											
			人件費計 (B)	千円	65,450	60,700											
			トータルコスト(A)+(B)	千円	259,692	251,122	0	0	0	0	0	0			0		

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成)～E(ほぼ未達成)
C:一部の成果指標について目標を達成した
(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)
B:成果がどちらかと言えば向上した
(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)
・市と市民の協働により、花と緑のまちづくりの推進組織として「花と緑のまちづくり協議会」を発足させ、特に大学通り緑地帯では花壇づくりを精力的に行っている。 ・雨水浸透ますの設置促進により、地下水の涵養が図られている。雨水浸透ます設置助成金制度の利用は無かったが、開発行為等により窓口指導での設置が多数あることにより、年々設置数は着実に伸びている。 ・湧水の環境基準については、ママ下湧水及び青柳段丘湧水での調査結果で、全部の地点でPHは基準値内であった。

5 施策の現状 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

みどりは、身近な自然とのふれあいや安らぎ、冷涼な空気を生み出す憩いの場の提供等、市民生活にとって不可欠なものであり、また、環境保全、防災、レクリエーション、都市景観等の面でも重要な役割を担っています。一方で都市化の進行により、農地を含む市内の緑地面積は減少傾向にあります。

湧水については、冬期を中心として水量の低下がみられるため、今後も引き続き雨水浸透ますに代表される地下水の水量を確保する取組みが求められます。また、平成26年度には「雨水の利用の推進に関する法律」と「水循環基本法」の二つの法律が施行され、水資源の活用や保全などに関し、国等の責務が明らかになりました。

平成25年度に設立した「花と緑のまちづくり協議会」との協働事業は、花壇づくりや接ぎ木育苗など数多くの事業を展開しており、市民団体等の協力が不可欠となっています。

なお、地球温暖化による台風の大規模化に伴い、市内においても平成30年度の大学通りの桜の倒木、令和元年度の多摩川の逸水による河川敷公園が被災するなど、安全性の向上が求められている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

大学通りの桜等の倒木などにより、人への事故がないよう、安心安全の確保を徹底して欲しい。

貴重な城山の景観資源を残して欲しい。

府中用水を環境型用水路として、通年通水を行うことや、崖線等の樹木の保全などの要望がある。一方で崖線等の樹木に対する近隣住民からの各種(落葉や日陰)苦情が増加している。

水田農家の減少により、用水路の維持管理が行き届かないことによる苦情が市に寄せられている。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

他自治体と比べて同水準である。

(4) 施策の具体的な取組状況

2年度の取組状況	3年度の取組予定
・「里人会議」の各団体と、コロナ渦を踏まえて、お互いの活動状況を共有し相互理解を深められたが、3月に予定していた「里山フェスタ」については、コロナ渦の影響により中止となった。 ・「花と緑のまちづくり協議会」とともに、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを推進した。 ・「大学通り緑地帯全体計画検討会(市民参加会議)」において、全体計画(案)について集約した。また、桜の維持管理方針に沿った桜の維持管理を推進した。 ・「くにたち緑のサポーター」の連続講座も、コロナ渦の影響で、中止となった。 ・崖線の保全及び安全を確保するため、崖線の維持管理方針を踏まえて、寄付を前提とする公有地化に向けて取り組んだ。 ・「農の営みが残る原風景補保全するための指針」を踏まえて、城山公園拡張に向けた、都市計画の変更及び都の事業認可の手続きを進め、利活用については自然農法によるソーシャルファームとしての活用の検討を進めた。 ・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業を継続して実施した。(窓口指導を222件実施し、989基の浸透マスを設置した)	・「里人会議」の開催を検討し、同じフィールドで各種事業を展開する団体等の相互理解を深める。また、コロナの状況を踏まえつつ、3月初旬には里山フェスタの開催を検討する。 ・「花と緑のまちづくり協議会」と共に、事業を展開し花と緑のまちづくりを進める。また、「大学通り緑地帯全体計画」を踏まえて、大学通り緑地帯のあり方に関し、桜の更新も含め、保全と利活用の両立について検討・協議を行っていく。 ・「大学通り緑地帯全体計画検討委員会(庁内会議)」において、庁内各課からの意見を踏まえて全体計画(案)を取りまとめる。引き続き、桜の維持管理方針に沿った桜の維持管理を推進する。 ・コロナの状況を踏まえつつ、「くにたち緑のサポーター」向けの講座(勉強会)を開催し、緑のサポーターの養成に取り組む。 ・崖線の保全及び安全を確保するため、崖線の維持管理方針を踏まえて、寄付を前提とする公有地化に向けて取り組む。 ・城山公園拡張事業について、都市計画の変更及び都の事業認可の手続きをすすめるとともに、利活用について検討を進める。 ・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業及び窓口指導を継続して実施する。

6 2年度の評価結果 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) ※基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

○「花と緑の確保」を推し進めている。

・大学通り緑地帯の桜の維持管理に関する指針に沿って桜の維持管理に努めたほか、「大学通り緑地帯全体計画」(案)について、検討会の意見を集約した。

・崖線の保全及び安全を確保するため、崖線の維持管理方針を踏まえて、寄付を前提とする公有地化に向けて取り組んだ。

・城山公園に隣接する生産緑地の買取申出があり、国立市土地開発公社にて先行取得していたが、都補助金を活用し、公社から買い戻しを行い市有地化し、農の営みが残る原風景の保全に向けて、活用方法を検討した。

○「水環境の保全と活用」は、地下水及び湧水の定期的な調査監視等を行うなかで推進している。

・水路について、浚渫や草刈りなどの清掃を行い維持管理に努めた。

・ヤクルト本社中央研究所西側の水路護岸沿いに陥没が発生したことにより護岸改修工事を行った。

○改善余地のある事項・課題等

地権者の高齢化及び地球温暖化に伴う台風の大規模化など、崖線の樹木等を取り巻く環境は厳しさを増しており、安心安全を担保するためにも適正な維持管理が課題となっている。課題解決には定期的な剪定や更新等が必要となり、合わせて財政の確保が必要となる。また、水路についても老朽化が進み、抜本的な対応が求められている。

(2) 施策の2年度における総合評価

B

成果実績数値の評価(A～E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価

A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。

B:一定の成果を挙げており、向上・改善の余地がある。

C:成果向上のため、一層の努力が求められる。

D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。

E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。

7 施策の課題・今後の方向性 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 4年度の取組方針

・城山公園拡張事業を通し「里山づくり」を推進する。また、里人会議や緑のサポーターの活用を検討する。

・各種事業を展開する団体等の相互間の交流を深め、里山フェスタを実施する。

・「花と緑のまちづくり協議会」とともに、検討会を通して数多くの事業を展開し、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを進める。また、「くにたち緑のサポーター」の連続講座ではアドバンスコースを継続しサポーターのさらなるスキルアップを向上を図る。

・「大学通り全体計画」の策定に当たり、大学通り全体計画検討会での検討を行う。また、桜の維持管理フローに基づき、適正な維持管理に努めるとともに市民への周知を行う。

・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業及び窓口指導を継続して実施するとともに、地下水涵養調査結果に基づいた施策を進める。

・公園の長寿命化計画(案)の策定する。

・緑の基本計画(案)を改定する。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・環境基本計画、緑の基本計画、公園長寿命化計画等の基本的な考え方などに基づき、市民や行政ニーズに対応する。